

農協役員室で——ネズミ盗聴記

元農協学園長
秋田 義信



農協の役員室。オンベ、油・売りなどが今日も畠から逃げてきて雑談を交わしている。オンベが弘前

の図書館でコピーをとってきたといつもものを読みあげている。農地改革前の津軽の大地主のことだ。



オンベが「金木町と五所川原までの鉄道は、主に津島家が大株主になって通したものだそうだ。小作米を運ぶために」とか「田沢吉郎氏の妻君は津島文治の長女だ」とか「米内山義一郎氏（上北町、社会党衆院議員）が青森中学時代、太宰と同期だったぞうだが、太宰が着ている服も靴も、他の生徒と全然違っていたぞうだ。」など。

「農地改革」（昭和二十二年～二十四年）前の津軽の大地主

（小作人が地主へ納める「小作米」は四割。南部地方は五割だったとのこと）

| 氏名 | 住所 | 水田反別 (町歩) | 小作人数 (人) | 氏名 | 住所 | 水田反別 (町歩) | 小作人数 (人) |
|--------|------|--------------|-------------|-------|----|--------------|-------------|
| 高杉金作 | 高杉村 | 六五 | 一〇五 | 安田コ造 | 板柳 | 九二 | 一一三 |
| 松本純一郎 | 千年村 | 五八 | 一一〇 | 安田才助 | 板柳 | 二〇一 | 二八〇 |
| 高谷貞助 | 船沢 | 七二 | 一四〇 | 青山浅次郎 | 板柳 | 五五 | 九八 |
| 笹森栄 | 和徳 | 八〇 | 一五〇 | 宮越正治 | 内湯 | 一〇五 | 二二三 |
| 佐藤源蔵 | 田舎館 | 二二 | 二五〇 | 原田藤次郎 | 森田 | 二二二 | 三〇〇 |
| 田沢信 | 田舎館 | 八三 | 一五〇 | 原田豊次 | 森田 | 一〇二 | 一五〇 |
| 長谷川信太郎 | 五郷 | 七三 | 一六二 | 佐藤日郎 | 森田 | 五七 | 五〇 |
| 長谷川宗一 | 五郷 | 六三 | 一五三 | 石田ミツ子 | 柴田 | 六五 | 六〇 |
| 加藤宇兵衛 | 黒石 | 二四三 | 二五〇 | 渋谷文男 | 水元 | 一四二 | 一六〇 |
| 鳴海文四郎 | 黒石 | 八五 | 一四五 | 長谷川一郎 | 舘岡 | 一九八 | 二〇三 |
| 鳴海浜代 | 浅瀬石 | 九〇 | 一〇七 | 鳴海周次郎 | 車力 | 一七八 | 二〇〇 |
| 対馬瑠太郎 | 中郷 | 二三〇 | 二二〇 | 高谷豊之助 | 木造 | 二三七 | 一八〇 |
| 宇野清左衛門 | 大郷 | 一五七 | 二七五 | 市田忠八 | 木造 | 六〇 | 五〇 |
| 西谷寿徳 | 尾上 | 六二 | 一五八 | 小倉常吉 | 十三 | 八四 | 六五 |
| 阿部誠一郎 | 七和 | 一〇四 | 九八 | | | | |
| 楠美芳幹 | 七和 | 五二 | 五一 | | | | |
| 古川市三郎 | 中里 | 一八六 | 一四一 | | | | |
| 井沼覚五郎 | 中里 | 七二 | 九三 | | | | |
| 大川忍之助 | 中里 | 七六 | 一〇四 | | | | |
| 斉藤純吉 | 治川 | 一一二 | 一四七 | | | | |
| 津島文治 | 金木 | 二一八 | 二九〇 | | | | |
| 高橋弥左衛門 | 金木 | 七九 | 一二四 | | | | |
| 佐々木嘉太郎 | 五所川原 | 六〇九 | 八九四 | | | | |
| 平山又三郎 | 五所川原 | 二三五 | 四六八 | | | | |
| 竹浪繁造 | 板柳 | 九四 | 一五〇 | | | | |

（注・大正十二年現在。山本省一著「青森県農地改革史」による。「農地改革」はマッカーサー司令部の命令）

金木町の津島家——「斜陽館」は明治四十年建築。工費、一万円説と四万円説あり。棟領は弘前の堀江佐吉。当時、日雇賃金三十五銭。太宰治が東大在学中、青森市の小山初代が追いかけて行って同棲。そのとき兄、文治が送金した金額は毎月百二十円とか。当時、小学校長の月給が六十五円。津島家へ入る小作米は毎年、七千俵くらいだったぞうだ。